

樹冠の葉や枝を地上から手軽に観察する方法

葉の変色など樹木の異変に気づいても、その箇所が高いところであれば、原因を特定するのは容易ではありません。そこで、地上にしながら樹冠の葉や枝等を詳細に観察するためのWi-Fi機能付きコンパクトデジタルカメラ（以下コンデジ）と高所撮影用一脚を用いた撮影法を紹介します。

この方法では、3階建の屋上くらいの高さ（11mほど）まで撮影が可能となり、昆虫の食害など原因特定の可能性は格段に上がります。ファインダーに映り込んだ樹冠の様子を、Wi-Fi機能を利用して手元のタブレット端末等に中継し、中継映像を見ながら、カメラ位置を一脚で調整、手元でシャッターを押し、欲しい画像を取得できます。さらに、動画や写真のモード切り替え、ズーム調整も自由自在に行えるため、樹冠の様子を、まるで木登りして撮影しているかのように観察・記録できます。樹木異変の原因特定に十分耐えうる証拠映像を取得できるのです。

近年はドローンを使った林分単位での森林の状況把握も行なわれていますが、一脚を用いた樹冠の観察・撮影手法は、高さに制限はあるものの、可搬性に優れ、ドローンでは難しい近接撮影に力を発揮します。これらの手法を目的や状況に応じて使い分けることで、「遠・近」両スケールでの樹木・森林の状況把握が可能になります。



映像を確認しながらの撮影の様子

ご関心のある方は、森林総合研究所東北支所
(TEL:019-641-2150)へお問合せ下さい。